

28年前に「普通」願い

台風10号の接近で朝から雨が降りしきった30日、さいたま市浦和区の県庁に、車いすに乗った人たちが続々と集まってきた。障害者やその家族、支援者が行政への要望を伝えるため、28年前から続けている「総合県交渉」に出席するためだ。会場となった県庁内の講堂には100人近くが詰めかけ、約20台の車いすが並んだ。

冒頭、今回の要望書をとりまとめた埼玉障害者市民ネットワーク代表の野島久美子さん(58)＝春日部市＝がマイクを握ってあいさつし、続けて山下浩志さん(70)＝同＝がスクリーンにスライド画面を映し出した。示したのは、棒グラフ。1979年の養護学校義務化の時点から、養護学校や特別支援学校などで「分け

る教育」を受けて福祉施設に入所した人が、倍以上に膨れあがった状況を表していた。

「(障害者を受け入れる)福祉施設がこれだけ増えるとお金がかかる。そうすると『障害者は金食い虫だ』という発想になり、津久井やまゆり園のような状況が、社会の中に生まれる」。山下さんは、社会に大きな衝撃を与えた「やまゆり園事件」を引き合いに訴えた。

障害のないあなたへ

知事応接室を「占拠」した人々



1

県庁に4日間 教育長に直接主張



30日に行われた「総合県交渉」で、要望書のページを繰る野島久美子・埼玉障害者市民ネットワーク代表(右)＝県庁で

に、脳性まひの野島さんが、車いすを使用しながらアパルトで一人で暮らしてきた経験を説明し、障害者が「普通に」暮らす意義を主張した。「こんな小さなことの話で、あなたの方が、大きく大きくしちゃってるんですよ」

この「占拠事件」から28年。野島さんは「(障害者のための)制度が整って、サービスも充実したけれど『分ける』システムはなくならず、障害者は今も見えないベールに包まれている」とため息をついた。

◇

その人のケアをやるうとすれば莫大な費用がかかります。そういうムダをするよりは、義務教育で、そして高校で、さらには自治体行政の中で、共に学んだり、働いたりする関係を広げていく努力のほうがずっとたやすいはずです

3日目の夜、ようやく姿を現した教育長を前に

この時、結局、少年ら

の入学はかなわず、3カ月後には少年らやその家族、支援者が知事や教育長との面会を求めて知事応接室に居座り、4日間わたって「占拠」するにわたって「占拠」する事態に発展した。この中に野島さんと山下さんがいた。

【奥山はるな】

11つづく

16歳殺害

中学生逮捕に

東松山市教委 検証し再発防止



東松山市下唐子の都幾川河川敷で吉見町中曾根の井上翼さん(16)が遺体で見つかったから1週間となった30日、殺人容疑で逮捕された5人のうち14歳と15歳の少年が通う中学校を管轄する東松山市教育委員会が同市内で記者会見を開き、中村幸一教育長が「事件を詳細に検証し、再発防止策に取り組み」との方針を示した。

中村教育長は会見で「今回逮捕された少年5人のうち4人が東松山市内居住者が中学生に衝撃を受けると吐露し、業として、小